

福祉施設で働くケアワーカーのストレス要因

—職業性ストレス簡易調査票を用いたアンケート調査より—

The Stressors of the care workers at social welfare institutions

○高野知博¹, 渡辺修宏²

Takano Chihiro¹, Watanabe Nobuhiro²

水戸総合福祉専門学校介護福祉学科¹, 水戸総合福祉専門学校²

Mito Welfare College Care worker course¹, Mito Welfare College²

Key words: care worker, stress, stressor, welfare institution

問題と目的

近年取り沙汰されているケアワーカーのバーンアウトや離職にかかわる問題の背景には、彼らの心理的課題があるだろう。すなわち、ケアワーカーが担う業務上のストレス要因が大きく関わっていると考えられる。

厚生労働省の労働者健康状況調査（2008）によると、仕事や職業生活でストレスを感じている労働者の割合は50%を超えている。そして、労働者の業務上のストレス要因は、男性だと「仕事の質」が最も多く（36.3%）、女性だと「人間関係の問題」が最も多かった（50.5%）。しかし、これらは業種を問わない労働者全体の結果であって、ケアワーカーに限定したストレス要因の現状を述べているわけではない。ケアワーカーに限定してストレス要因を調べなければ、彼らの職務上におけるメンタルヘルスを検討することは困難であるといえる。そこで本研究は、ケアワーカーを対象にストレス要因の男女差や年齢による違いを精査し彼らのストレスの軽減を図るための方略について検討する。

方法

対象施設 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設の計3施設であった。

参加者 介護老人保健施設（53名）、介護老人福祉施設（28名）、障害者支援施設（31名）のケアワーカーら、計112名を対象とした。

期間 20XX年6月末～9月上旬の約2か月半。

手続き 上で述べた「職業性ストレス簡易調査票」に回答者の属性記入欄を設けて、A3サイズのアンケート用紙を作成し、ケアワーカーらが業務上で感じるストレス要因について尋ねた。留め置き法によってアンケート用紙を研究参加者に配布し、回収した。

倫理的配慮 アンケート用紙に研究の趣旨と目的を明記し、無記名式で回答を得て、個人が特定されないように統計的処理を行った。

結果と考察

調査の結果、107名からアンケート用紙を回収した（回収率95%）。アンケート結果の一部を図1に示した。ケ

アワーカーらはその業務のストレス要因として、「身体的負担」（男性92%、女性92%）を最も支持し、次いで「仕事の質的負担」（男性80%、女性76%）、「仕事の量的負担」（男性76%、女性75%）を支持した。「人間関係の問題」（男性30%、女性30%）や「働きがい」（男性7%、女性16%）、「適性度」（男性7%、女性16%）は比較的ストレス要因になっていなかった。したがって、ケアワーカーのストレス要因は、労働者健康状況調査（2008）の結果と異なっていることがわかった。

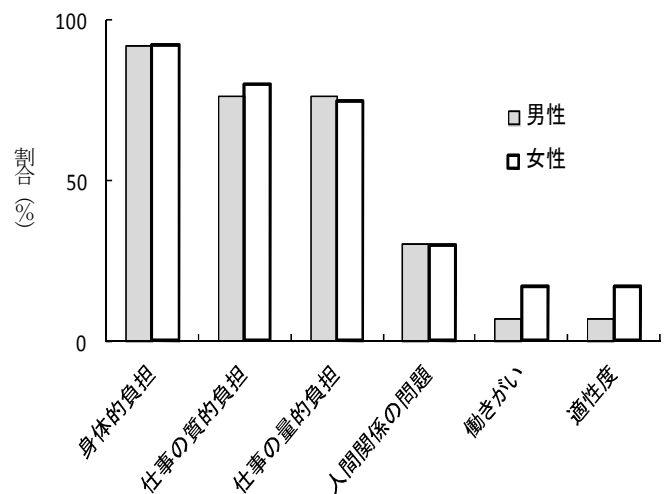


図1 ケアワーカーのストレス要因

労働者健康状況調査（2008）と本研究の結果が異なる理由は、ケアワーカーの職務特性によるものであろう。おそらく、身体的負担、仕事の量的質的な問題は、彼らのフィジカルにかかわる問題と考えられる。ケアワーカーのメンタルヘルスを検討するに際しては、このような職務特性を考慮しなければならないであろう。

今後、詳細な分析をすすめるとともに、より緻密な検討を行う必要がある。

参考文献

厚生労働省（2008）. 平成19年労働者健康状況調査結果の概況